

Happy Halloween

Welcome to 五高 library

The door to the books

こんにちは! 図書委員会です。
みなさん、10月といえば何を思い浮かべますか?
もちろん「ハロウィン」ですよ!今回は、そんな10月に読みたいこわーい本を選びました。
加えて映画化もされている作品です。それぞれの作品の良さを感じながら読んでもらいたいです。
ぞわっとする瞬間をお楽しみに!

令和7年度
五島高校:図書委員会
10月15日作成
10月23日発行

令和6年度
文部科学大臣表彰
子供の読書活動優秀実践校

イラストレーション部担当
2-1
2-4

図書委員制作担当
2-4
2-4
2-6
2-6



リング

著者:鈴木 光司
出版社:KADOKAWA

日本で一番怖いホラー映画となった原作本です。
リングを見てからは、テレビや井戸が怖いものを感じられ、貞子というキャラクターが拍車をかけます。
今宵読んだ人は、夢にも貞子が現れるかもしれません。



近畿地方のある場所について

著者:背 筋
出版社:KADOKAWA

オカルト雑誌の編集者・ライターの二人が近畿地方の「ある場所」にまつわる怪談や心霊現象の数々を調査する中、自らの記録や掲示板投稿などが徐々に一つの恐怖の真相へとつながっていきます。恐怖を感じながら次の1ページをめくっていきましょう。

禁忌の子

著者:山口 未桜
出版社:東京創元社

ある日、救急医である主人公の武田の元に搬送されてきたのは、溺死したとみられる身元不明の遺体だった。その遺体「キューキュー十二」がどうして死んでしまったのか、武田との関係性は...。
武田は旧友の医師である城崎と共に調べ始めた。そして、彼らは思いもよらなかった真実にたどりつくことになる。
この作品は、第34回鮎川哲也賞を満場一致で受賞しており、SNSでも話題になっています。高校生に考えてもらいたい作品です。
表紙にご注目!続編もあります。
ぜひ読んでみてください。

長崎県人

屍人荘の殺人

著者:今村 昌弘
出版社:東京創元社

神紅大学ミステリ愛好家の葉村譲と会長の明智恭介は、いわくつきの映画研究会の夏目宿に参加するため、同じ大学の探偵少女、剣崎比留子と共にペンション紫湛荘を訪ねた。
合宿一日目の夜、映研のメンバーたちと肝試しに出かけるが、想像しえなかった事態に遭遇し、紫湛荘に立てこもりを余儀なくされる。緊張と混乱の一夜が明け、部員の一人が密室で惨殺死体となって発見される。しかし、それは連続殺人事件の幕開けに過ぎなかった...!!
奇想と本格が見事に融合する選考員大絶賛の第27回鮎川哲也賞受賞作であるこの作品をぜひお楽しみください。

ヨモツイクサ

著者:知念 実希人
出版社:双葉社

「黄泉の森」というアイヌの人々が恐れ、絶対に入ってはいけない禁域があった。そこには、未知の生物「ヨモツイクサ」が存在する。
大手ホテル会社がその禁域を開発しようとするが、作業員が行方不明に。主人公の佐原茜は、この事件と7年前の自分の家族の神隠し事件と関連があるのではないかと考えた。そして、茜は「黄泉の森」に入ってしまった。
「ヨモツイクサ」の正体とは。衝撃的な「一撃」をお楽しみに。
※この作品はグロテスクな内容となっているので苦手な方はお控えください。

図書館統計のお知らせ

9月の貸出冊数は59冊です。

昨年度は106冊でした。

9月昼休みと放課後の

入館者数は289人/16日です。

読書の秋

汝、星のごとく

著者：凧良 ゆう

出版社：講談社



「愛」とは何だと思いますか？

この本は、瀬戸内海の小さな島で共に孤独を抱えた二人が惹かれ合い、すれ違い、成長していく物語です。

17歳から15年間の切ない愛と人生の選択を描いたラブストーリーは、とても感動します。

2026年映画化されます。その前に原作を!!

怖い話の後は、恋愛系のロマンティックな作品を紹介します。

勉強の合間にホッと一息、ゆったりと読書をするのはどうでしょうか？

研究で「6分間の読書」は、ストレスレベルを68%軽くするという結果が出ています。

読書中に分泌される「オキシトシン」というホルモンは、「幸せホルモン」と言われ、

私たちにリラックス効果をもたらし、心の安定につながると考えられています。

面白かった本は、ぜひ友達や家族などに紹介してみてください。

もしも明日があるのなら、
君に好きだと伝えたかった。

著者：miNato

出版社：スターツ出版



この物語の主人公・琉羽(るう)は、ある日突然事故に遭い、気がつくと三か月前の世界に戻っていました。もう一度やり直すチャンスを手に入れたのです。限られた時間の中で、琉羽は「本当に伝えたい思い」と向き合いながら、少しずつ自分の気持ちを形にしていきます。

この作品は、後悔や伝えられなかった言葉をテーマにした、切なくも温かい恋愛小説です。

「明日があること」は当たり前ではない。だからこそ、今この瞬間を大切に生きようというメッセージが込められています。

キュンキュンしたい人は、ぜひ読んでみてください。

366日

著者：福田 果歩

出版社：光文社



HYの名曲「366日」から生まれた、心に響くラブストーリー。

沖縄で出会った美海と湊。かけがえのない時間を過ごす二人を思いがけない出来事が引き裂いていきます。

「本当に大切な人」とは誰なのか、読後に静かな余韻が残る一冊です。ぜひ読んでみてください。

か「く」「し」「ご」と

著者：住野 よる

出版社：新潮社



登場人物たちは、どこかしらに秘密を持っていて、その「かくしごと」が彼らの人生に大きな影響を与えています。それぞれが抱える葛藤や悩みを通して、私たちが日常の中で感じる心の奥に隠しているものや他人には言えない思いについて考えさせられます。

この作品を読んでいると、かくしごとを抱えたままでも誰かと向き合うことで、少しずつ解放され前に進んでいけるというメッセージが伝わってきます。それは、単に秘密を打ち明けることではなく、自分自身と向き合い、成長していく過程の大切さを教えてくれます。

ドキドキが止まらない高校生の青春ストーリーをぜひ手に取って読んでみてください。

赤と青とエスキース

著者：青山 美智子

出版社：PHP 研究所



メルボルンで出会った女子大生のレイとブーの「期間限定の恋人」から始まる、ある一枚の絵画を巡る5つの愛の物語です。絵画が日本に渡り、様々な人々の手に渡ることで、それぞれの人生で奇跡や真実を紡いでいきます。

ぜひ、「ふたり」の間の奇跡を楽しんでください。

図書館よりお知らせ
全国読書週間の期間、全校生徒で
貸出した冊数が100冊目ごとに
図書カードをプレゼントします。
さあ、本をたくさん借りよう!

